

今年(令和6年)の稲作は



# 斑点米カメムシ類

# 要注意!

斑点米カメムシ類(写真1)は籾を吸汁し斑点米を発生させます。わずかな斑点米の発生でも玄米の品質低下(等級落ち)を引き起こすため、水稻の重要害虫に位置づけられています。



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

アカヒゲホソミドリ  
カスミカメ

アカスジカスミカメ

写真1 斑点米カメムシ類

(農業総合研究センター防除課資料より)

## 昨年の夏は猛暑

昨年(令和5年)の夏は、記録的な猛暑でした。夏が暑いと、斑点米カメムシ類の数が増加します。その影響で水稻の品質が低下した年でした。



## 今年の冬は暖冬

今年(令和5~6年)は暖冬で経過しました。暖冬の年は、寒さで死んでしまう虫の数が少ないため、春から夏にかけて水田に飛来する虫の数が多くなります。



## 水稻の品種構成の変化

近年、食用米に加え、飼料用米などの作付が増加しています。飼料用米などは、刈取りが遅くなるため、秋にカメムシのエサとなる稲が長くほ場にあることで、カメムシの栄養条件が良くなっています。



## 今年の夏も猛暑予想

気象庁から、今年の夏も暑くなるとの予報が出されています。さらに、エルニーニョが終息しラニーニャ現象が発生することが予想されていることから、今年の夏も猛暑となりそうです。



カメムシが増加する要因が揃っています

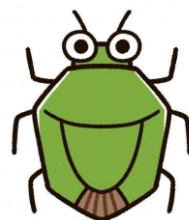


表 栃木県における主要な斑点米カメムシ類の水田への侵入時期と加害

	水田への誘引源	水田内への成虫侵入時期	加害時期	加害部位 <sup>※1</sup>	主な被害傾向
クモヘリカメムシ	・イネ科雑草（ヒエ等）の穂 ・周りど時期がずれて（早・遅）出穂した水稲の穂	・水田内のヒエ等の出穂期 ・水稲出穂期以降	登熟期	籾の縫合部	屑米 斑点米
ホソハリカメムシ				籾全体	
アカヒゲホソミドリカスミカメ	・イネ科雑草（ヒエ等）の穂 ・水稲の穂	・水田内のヒエ等の出穂期 ・水稲出穂期以降 <sup>※2</sup>	登熟初期	籾の頂部	尻黒米 カメムシ黒点米
アカスジカスミカメ				籾の縫合部がゆるんだ隙間 籾割部	

※1 アカスジカスミカメは主に侵入した成虫が加害。他種は成虫・幼虫（成虫侵入の10日～2週間後頃から発生）が加害。

※2 出穂前の6月頃にも成虫侵入は見られる。

## 防除対策

斑点米カメムシ類はイネ科植物の種子を好みます。水田内や水田周辺のイネ科雑草等は斑点米カメムシ類の誘引源、発生源、水田内へ侵入するための中継点になりますので、カメムシ類の生息しにくい環境を整え、斑点米の発生を防ぎましょう。

### 水田内の除草

水稲出穂前に結実するヒエの穂、イヌホタルイの小穂は、斑点米カメムシ類の誘引源・発生源となりますので、結実前に除草を行いましょ。



【イヌホタルイの小穂】

### 水田周辺の除草

農道や畦畔のイネ科雑草、水田周辺雑草地は斑点米カメムシ類の発生源になるとともに、水田内へ侵入するための中継点になります。イネ科雑草が結実する前に除草を行いましょ。

- ①水稲の出穂2～3週間前
  - ②水稲の出穂期頃
- (1回目に刈ったイネ科雑草が出穂する前)
- } 2回の草刈り

①出穂2～3週間前と②出穂期頃の両方で除草ができれば、水田周辺のイネ科雑草の穂を長期間抑えることにより、カメムシ類の水田への侵入をさらに低減することができます。

注1) ① 出穂2～3週間前の除草だけでは、イネ科雑草が再出穂してカメムシ類が飛来するので、必ず①②両方で除草を行いましょ。

注2) ② 出穂期頃のための除草だけでは、イネ科雑草の穂に集まっていたカメムシ類を水田へ追い込み、水稲の穂を集中加害させることとなります。①② 両方の除草ができない場合は、水稲の出穂期10日前までに除草を済ませましょ。

### 薬剤防除

穂ぞろい期に斑点米カメムシ類が水田内に確認できる場合は、乳熟初期（出穂期7～10日後）までに適用のある薬剤で防除を行いましょ。その後も発生が多い場合は、7～10日間隔で1～2回の追加防除を行いましょ。

◎粒剤は、出穂期～出穂期の7日後までに散布しましょ。

◎液剤・粉剤は、乳熟初期(出穂期7～10日後)の散布が効果的です。

問い合わせ先

安足農業振興事務所 経営普及部 農畜産課 0283-23-1431 (代表)